

「ボランティア自主企画事業」

1. 趣旨

花山青少年自然の家において、ボランティアが教育事業の一部や自主研修を企画、運営することで、先輩と後輩のよい関係作りを行いながら、スキルアップや参画意識を高めることを目的とする。

2. 事業の概要

(1) 期日

①第1回 平成28年10月22日(土)

「第2回はなやままるごとフェスティバル ハロウィンオリエンテーリング 1日目夜の部」

②第2回 平成29年 2月18日(土)

「五感を使って体験しよう!おやかんかく発見隊 探検ゲーム 1日目夜の部」

②第3回 平成29年 2月25日(土)～26日 「ボランティア自主研修会 1泊2日」

3. 企画・運営のポイント及び参加者

①「第2回はなやままるごとフェスティバル」15名

ボランティアによる企画会を設け、当日の企画、運営を行う。企画会を通して横のつながり構築することで活動への参画意識を高めた。

②「五感を使って体験しよう!おやかんかく発見隊」2名

リーダーとなるボランティアを中心にプログラムを練り、実習生に協力を得ながら実施した。

③「ボランティア自主研修会」8名

ボランティアによる企画運営とし、ミックスキャンプの報告会を通して他施設の活動情報を入れることで次年度への意識を高める。先輩ボランティアと後輩ボランティアの引継ぎの場とする。

4. 実施内容

平成28年10月22日(土)【第2回はなやままるごとフェスティバル】1日目	
夜間	13:30 最終企画会議、実施準備
	17:30 ボランティア企画:ハロウィンオリエンテーリング 1回目17:30～ 2回目19:00～ 内容:館内探検、衣装づくり、ハロウィンクイズ、レクリエーション、ダンスなど

平成29年 2月18日(土)【五感を使って体験しよう!おやかんかく発見隊】1日目	
夜間	前日 ボランティア企画会議(仙台大実習生も含む)
	20:00 ボランティア企画:探検ゲーム 館内探検、絵本コーナー、お絵かきコーナー

平成29年 2月25日(土)～26日(日)【ボランティア自主研修】	
一日目	11:00 参加者到着、受付、開講式
	13:00 アイスブレイク
	13:30 ボランティアミックスキャンプ報告会
	14:00 ボランティア活動の現状と課題(話し合い)
	16:00 野外炊事(特別野炊:オリジナルお好み焼き、焼き肉)、職員との懇親会
二日目	6:30 起床、朝のつどい、朝食、部屋点検
	9:00 雪上活動研修会
	12:00 昼食
	13:00 これからのボランティア活動について(話し合い)
	13:30 先輩ボランティアへのメッセージ 閉講式

5. 主な活動



「ハロウィンオリエンテーリング①」
ボランティアの打合せ



「ハロウィンオリエンテーリング②」
ダンスを教える場面



「ハロウィンオリエンテーリング③」
衣装づくりの場面



「おやかんかく発見隊」
夜の探検ゲームの様子



「ボランティア自主研修①」
ボランティアミックスキャンプ報告



「ボランティア自主研修会②」
話し合いの場面

6. 成果と課題

(1) 参加したボランティアの声

【はなやままるごとフェスティバル ハロウィンオリエンテーリングについて】

- ・今回初めてボラで企画、運営をして、ここまでたくさんの人に参加してもらえて楽しかったと言って貰えたのも、みんなの力があつたからこそだと思いました。こどもたちの楽しんでいる様子などをみて、今回参加して良かったと思いました。
- ・初対面だったり、あまり話したことのない方も多かったです。話したり一緒に作業したりで、仲良くなれた気がします。もっと一緒に色々やりたいなと思いました。

【おやかんかく発見隊 夜の探検ゲームについて】

- ・夜のプログラムで実習生と前日に考えたオリエンテーリングを行ったのですが、けっこう子どもたちの反応が良く楽しめたと思います。子どもたちはミッションを達成するのが面白く感じていたようですが、幼児ということで難しくなったミッションもあり、子どもの年齢に合わせたミッションを考える必要があると思いました。

【ボランティア自主研修会について】

- ・全国キャンプを終えて、その報告が私の中ではこの研修会の大きなイベントでした。ボランティア同士で腹を割って話す機会は普段の事業の時は大きく取れないので大切だなあと感じます。今回は動き出しが遅いのと、企画の担当決めが曖昧だったので、ちゃんとその辺をする必要がありました。

(2) 成果

自主企画を通してボランティア同士で連絡を取り合い、横のつながりが生まれた。さらに、先輩ボランティアから後輩ボランティアへとつなげていこうとする意識も感じられ、自主企画以外のボランティア活動にも良い影響を及ぼしている。

(3) 課題

ボランティアが主体的、意欲的に活動できる場を継続して提供する必要がある。その際、同じボランティアに負担が集中するということがないように、企画の中心となるメンバーを増やすためにボランティアへの情報提供の仕方等を工夫する。

担当：企画指導専門職 奥山 洋